

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200179		
法人名	社会福祉法人 二之沢真福会		
事業所名	認知症対応型グループホーム ルネスふれ愛の家		
所在地	群馬県高崎市大八木町512		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりがその人らしく生活できるように、できることをして頂きながら職員と協力して過ごして頂いている。
 外出支援、行事などを通じ、近隣とのつながりを大切にしている。
 毎日笑顔で楽しく生活してもらえるように支援している。
 職員ではなく利用者のペースに合わせてケアをし、優しい声掛けを行うことで穏やかに過ごして頂いている。
 職員と利用者が一緒に楽しめるレクリエーションやおやつ作りを一緒に考え行っている。
 転倒予防の為、毎日筋力アップ体操やリハビリ体操等を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

その人らしさを探るために利用者の行動について「理由があるゆえの行動」と理解し「理由を探す」事を職員が共有している。また、利用者への声かけについても「ちょっといいですか」とおだやかに声を掛け、職員同士でも互いに注意し合っている。そのためには職員に研修を受けさせる事が基本であり、地域の方々に開放した介護教室や認知症サポーター研修を始め権利擁護についての研修等が職員の資質の向上や意識付けとなり、「その人らしさとは」の理解を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時、スタッフ同士で理念を作り、毎日唱和している。	地域密着型サービスのあり方を端的に示した独自の理念を掲げている。管理者と職員は申し送り時に唱和し、理念を共有しながら「その人のありのままを受け入れる支援」を心がけ、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常に解放しており、介護者教室を開いたり、地域の行事に参加している。	地域の夏祭り・餅つき・道路清掃等に参加し、地域のふれあい芸能祭には、利用者と職員が踊りで参加している。年6回、地域の人達に回覧板で呼びかけ、介護者教室を開催し、3周年感謝祭では認知症サポーター養成講座を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や地域の方向けに認知症サポーター講習や介護者教室を開催し理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っている。 出席された方達の意見を参考にしてサービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回定期的で開催されている。運営状況・職員の研修や異動、外部評価等について報告を行い、話し合いを行っている。家族等や地域住民メンバーから出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で担当者が常時参加され理解して頂いている。 管理者は市の担当者を訪ね、相談等を行っている。	月1回、市の介護相談員を受け入れている。 利用者の申請代行や報告、相談等で市の窓口へ出向いており、市の担当者と連携を図りながらサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内、外部研修を受けている。 職員が拘束の意味や弊害を理解している。 また、ホールにポスターを貼り、意識付けをしている。	職員は身体拘束の意味や弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。「身体拘束廃止に関するシンポジウム」等に参加し、職員会議の中で報告を行っている。日中、玄関の鍵は開けており、安全面に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内、外研修を行っている。 言葉の虐待もあるので職員同志注意できる環境づくりを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、後見制度についての研修を設けて理解を深めている。 利用者の家族の方にも説明などできるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項を用いて、家族に説明し、署名、捺印をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の来所、要望書作成を行っている。運営推進会議、介護者教室へ参加を呼び掛け、要望などは会議で話し合い、反映している。利用者、家族に対してアンケートを作成し、業務に反映している。	利用者の要望等は、介護相談員に吸い上げてもらったり、運営推進会議や家族等の来訪時に、意見や要望を聞いている。年1回利用者・家族等にアンケートを実施している。出された意見等は、会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開催し、日頃から管理者は職員からの提案に耳を傾け、指摘等を頂いている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけている。毎月会議を開き、職員の意見や提案を聴き、運営に反映させている。年1回、個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等で話し合い、環境を整えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などへ積極的に参加できるようにしている。また、月1回内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に入っている。同業者との交換研修など積極的に参加し、他事業所との意見交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えには、傾聴し丁寧に答えるようにしている。 アセスメント、暮らしのシートを活かして、入居者の理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み、相談時から困っていること等に耳を傾け、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に今一番必要なサービスを説明し、紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事や畑仕事なども行ったりしている。職員も家族の一員として信頼関係を築いている。家にいる時と同じように、ゆったり穏やかに過ごして頂けるよう支援する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などへ一緒に参加して頂けるよう声掛けをしたり、出来るだけ参加してもらえるようにしている。 毎月、近状報告を兼ねて一筆箋と写真を家族に送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも気軽に来所してもらえる雰囲気づくりに努めている。	家族・孫・兄弟等の来訪時には、寛いで過ごしてもらえるよう配慮しており、その時撮った写真を送付している。家族等と外食や外泊、馴染みの美容院等に出かけている。電話や手紙での連絡を取り持っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみや車いすを押してもらったり、利用者同士が支えあえるように声掛けに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方へ、スタッフからのメッセージなどを送り、家族から相談がしやすいようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望、意向にできるだけ添えるように努力している。	普段の会話や表情・行動等の中から、本人の希望や意向を汲みとるようにしている。家族等から情報を得るために、センター方式の用紙に記入してもらい、その情報を職員間で共有しながら、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係機関から情報収集をし、職員に伝えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の行動、言動等を基に、健康チェックを行い、観察、情報などから、総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に課題を抽出し、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。	本人・家族等の思いや意向を聞き取り、担当職員を中心に課題を抽出し、カンファレンス等で話し合い、意見や気づき等を反映させた介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3ヶ月に1度の定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過を記録し、申し送り等で情報の共有をしながらケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人の希望により、一緒に買い物に行ったりと柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に出席して頂いたりしながら、地域との連携を計り支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度協力医療機関から往診があり、健康相談をしてもらっている。 必要時には指示をもらったり、受診を行っている。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。週1回協力医の往診があり、必要な人は受診に繋げている。家族同行の受診・通院が不可能な場合には、職員が代行して受診結果を報告している。歯科の訪問診療も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模多機能ホームの看護師や管理者(看護師)に相談、指示をもらったり協力医療機関と連携できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関もあり、密に連絡を取り、治療や退院後も安心して過ごせるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できること、できないことを見極め、本人、家族と話し合い、急な変化にも備え、対応できるようにしている。 主治医からの説明を受け、同意書を頂いている。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を本人・家族等に説明している。段階に応じて本人・家族等と話し合いを持ち、事業所でできることを説明し、意向を確認しながら、主治医・看護師及び関係者全員で支援している。主治医の判断で「看取り介護についての同意書」をもらい、3名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修を施設内で行ったり、避難訓練を実施している。 緊急時のマニュアルを事務所内に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。消防署の協力により消火器の使い方、通報の仕方など指導してもらっている。 地域の方には個別で協力をお願いしている。	年2回、消防署の協力を得て、総合防災訓練・避難誘導訓練を実施している。近隣の人に協力を依頼しており、緊急時連絡網を作成している。地域の協力体制については、人数の増加を検討している。	利用者や職員が確実な避難方法を身に付けられるように、実践的な訓練の増加に期待したい。災害に備えて、飲料水・食料・備品等の準備を進めていってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレなどの声掛けに注意している。 記録等の取扱いにも注意している。	本人の誇りやプライバシーを損ねないように、排泄介助等の言葉かけや対応については、普段から注意している。個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き、支えていけるようにしている。言葉だけでなく表情や行動からも、心の声、訴えを気づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が何を望んでいるか？常に疑問を持ちながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の美容師が来所し希望者、髪の長い方等の散髪している。 家族と以前から利用している理容室へ行く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族にアセスメントを取り、本人の嗜好確認しながら食事作りなどを職員と一緒にしている。食器も個々ごとに好みのものを使っている。月2回おやつ作りをし、楽しまれている。	利用者は野菜の下ごしらえ・味付け・洗い物等、職員と一緒にしている。本人の嗜好を調査し、管理栄養士が献立を作成している。職員も同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう支援している。おやつ作りや外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量をチェックしている。食事が少ない時などは工夫したり、果物など本人が好みのものを提供している。 また、水分もお茶やコーヒーなど本人が好みのものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりのパターンをつかみ、誘導、声掛けを必要な方には行うようにし、できるだけ布パンツが使用できるようにしている。	個々の排泄パターンを把握し、その人に合わせた誘導や声掛けを行い、できるだけ布パンツで過ごせるように支援している。失禁時の対応についても、羞恥心や不安を軽減するための配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖の使用や水分チェックを行っている。 数日排便がないときは、腹部マッサージを行ったり、下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り希望に添えるように支援している。 しょうぶ湯、ゆず湯など季節感も楽しめるようにしている。血行促進・浮腫予防・改善のために、入浴日以外は足浴を実施している。	毎日午前10時～夕方まで、入浴を楽しめる。一人ひとりに声をかけ、本人の希望に添えるように支援している。入浴日以外は足浴・清拭等を行っている。入浴剤の使用やゆず湯・菖蒲湯等も実施している。	時間帯を設定せずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、いつでも入浴を楽しめるように、夜間帯の対応についても検討して行ってほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調、状態にも合わせている。ホームに足台を常に用意しており、浮腫のある時等足を挙上して過ごして頂いている。マッサージチェアをホームに置き誰でも使えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書と薬と一緒に保管し、いつでも職員が内容を確認できるようにしている。 服薬準備、服薬前後必ず確認し、誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出等、地域との交流をして頂いている。 得意なことやできることをして頂き、ハリのある生活をしてもらえるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩、外気浴など、本人の希望に添って出掛けられるようにしている。 紅葉狩り等、家族の方にも一緒に参加して頂けるように声掛けをしている。	本人の希望に応じて、中庭で外気浴をしたり、畑で野菜づくりをしている。川沿いを散歩したり、買い物・季節毎の花見・初詣・紅葉狩り・温泉の足湯・ペットショップ等に出かけており、戸外に出て気分転換が図れるよう、日常的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、財布を持ち買い物して頂いている。(小額だが)自分でお金の管理をしている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時は電話をかけたたり、取り次いだりしている。 毎月の請求書に本人が書いた手紙等入れて一緒に送っている。また、年賀状等家族から届いたお手紙を本人に手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵や花を飾ったり、季節ごとに貼り絵などを一緒に作り飾っている。	玄関ホールに雛壇や生花を飾り、季節感を採り入れている。ホールには、利用者の写真・利用者と職員が制作した貼り絵等を飾っている。テレビ・テーブルやソファ・籐の椅子等が設置され、寛げるスペースになっている。小型のキッチンを設置し、環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや色々な椅子、テーブルを設置し、好きなところでくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具や布団等を使用して頂いたり、立ち上がり部分に手すりを設置したりと、本人、家族と相談しながら工夫している。	各居室には、桐箆笥・衣装ケース・テレビ・ソファ・蘭の花・書籍・DVD・表彰状等、馴染みのものや思い出の品々が持ち込まれ、本人が落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁伝いに手すりを設置している。ホール内にある柱につかまったり寄り掛かれる。 トイレには扉の他、カーテンも設置し、プライバシー保護している。ホール内に鏡を設置し、全体を見渡せるよう工夫している。		